

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376300238		
法人名	有限会社ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム設楽の家 1号館		
所在地	愛知県北設楽郡設楽町清崎字釜淵13番地2		
自己評価作成日	令和3年10月29日	評価結果市町村受理日	令和4年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2376300238-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和3年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で、身体能力が維持できるような支援や、笑顔や会話が増やせるような取り組みを心掛けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

創業150年余となる地元の酒蔵からは消毒用のアルコールが届き、清掃を兼ねた民生委員の慰問、小さな手で丹精込めて作ってくれた小学校からの日本茶、職員も名産の五平餅で腕を振るうという町内皆家族のような恵まれた環境に事業所はあります。コロナ禍となり、関わりは縮小せざるをえないものの、小学校には交流に変えて利用者の手縫いの雑巾や職員の編みぐるみが届けられ、奥三河の豊かな自然と同じくして温かな関係が続いています。山間地域のため職員は絶えず不足気味ですが、それでも戻ってきてくれた職員がいたり、ユニットリーダーの成長もあって、穏やかな空気が流れている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく個性を生かし、のんびりと居心地のいい、笑顔あふれる皆の場に！」を事業所の理念とし、管理者と職員はその理念を共有して取り組んでいる。	3つのユニットそれぞれで考えたうえで持ち寄り、職員全員で作成した理念です。「みんなで考えた理念だよ」を合言葉にして新人にも受けとめてもらっています。年配の職員と若い職員の行き違いにはフロアリーダーが助言を投げかけ、理念の推進を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響で、地域交流等は少なくなっている。近隣の小学校から、今年も児童が摘んだお茶を頂き、お礼に利用者が手縫いした雑巾を送るなど交流は続いている。また、施設前の町道の清掃を定期的に行っている。	例年大根や白菜、なめ草など山の幸も届き、コロナ禍対策として地元の造り酒屋からはアルコール1ケースが寄贈され、コミュニティが濃密です。ワクチン接種も住民でない職員にも対応くださり、町全体からよくしてもらっていることを感謝しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年行われていた認知症セミナーは、コロナ禍の為実施されなかったが、管理者は相談等で認知症の状態を理解してもらうように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、運営状況等の報告をし、委員の方々から意見を頂き、事業所の運営に反映できるように取り組んでいる。	運営推進会議はコロナ対応で時間は短くしているものの、地域・行政・家族とメンバーが一堂に会して隔月開催できています。川釣り客のマナーについては我が事のように憤ってくださる様子が議事録に垣間見え、一つのチームとなっているように映ります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、役場担当者と連絡を取り、コロナ対策や災害時などの協力が得られるように取り組んでいる。	2月のアマゴ、6月の鮎の川釣りのシーズンには駐車車両で道が塞がれてしまうため、町では禁止の白線や看板を設置してくださるほか、本年度の介護改定で基礎研修が義務づけされたことの相談にも動いてくださり、常に親身な対応があります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束について3ヶ月毎に話し合い、学び、理解し、そのような行為が行われないように努めている。また、玄関に施錠する場合は、施錠表をつけ理由を明確にしている。	リーダーは職員に厳しいときもありますが、管理者がリーダーと職員の気持ちに配慮して、双方にストレスが溜まらないよう支援しています。身体的拘束適正化検討委員会には10名近い職員が集まり、現場に起きている身近な課題について協議されています。	委員会の協議内容は研修でおこなうこと(知識学習)と一線を画すことができると、なお良いと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼や研修等で学び、理解し、職員間でも注意し合い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は必要に応じて関連機関と連絡調整をとり、支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、利用者や家族と契約前に面談をし、不安が無いよう丁寧に説明し、理解納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表が参加したり、面談や電話などで意見を聞き、運営に反映している。コロナ禍での面会の取り組みについても、利用者や家族の意見も聞き取り入れている。	3ユニットあって家族数も多く、管理者とリーダーで一つとなって要望に応えるよう努めています。マスク着用や人数制限などの安全対策は当然のこととして、「硝子越しで顔をみるだけ」「外のベンチ、天気がわるいときは玄関先に替える」などコロナの状況で面会方法を工夫しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やリーダーミーティング等を通じ、職員の意見や提案を取り入れ、サービスの向上に反映させる努力をしている。	一旦辞めて他の事業所に勤務したものの当事業所がやはりいいとのことで戻ってきた職員もいて、高齢の職員のことを気遣いつつ若い職員も朗らかに勤めています。職員数が充実していないため、意見にはしっかり耳を傾けて皆で改善向上していきたいとしています。	職員確保が難しく、また高齢の職員が年々増えていくことが見込まれることから、力を入れる介護と簡便化する業務の仕分けをおこない、できるだけ長く働いてもらえるようにしていくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等の支援をし、各自が向上心ややりがいが持てるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修受講の他、法人外の研修について掲示し、受講希望者は参加できるように勤務を調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者等と情報交換をしながら交流し、サービスの質を向上させるよう努めている。新型コロナウイルス感染症の関係で、研修会等の機会が無いが、電話等を通じ交流している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容・傾聴を大切にし、本人の声をしっかりと聞き取りしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の要望を確認し、出来る限り答えるよう聞き取り、信頼関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・面談時にしっかりと聞き取り、必要としている支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にサービスを提供するだけでなく、出来る事を見つけ一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や手紙で近況を報告し、協力を依頼している。面会や病院受診同行等を通じ、絆を維持できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の影響で面会の制限はあるが、なるべく関係が途切れないよう配慮している。	デジカメや刺し子等の継続例のほか、「ここなら住みたい」と飲んで入所くださった人もいます。事業所から歩いて行ける道の駅「したら」の屋外展示には廃線となった旧豊橋鉄道田口線の木製車両「モハ14型」が在り、同電鉄に勤務していた利用者にはかえがたい思い出のようです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の仲を取り持ち、孤立することがないように、また、他号館の利用者ともコミュニケーションがとれるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、必要に応じてご家族等からの相談には、アドバイスや支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	丁寧に話を聞くことで、本人の希望・意向が把握できるように努めている。認知症の影響でうまく言葉にできない利用者に対しては、日頃の会話や表情から希望・意向を汲み取るよう努めている。	食への要望は一樣にあることや誤嚥も心配なため嗜好調査を年1回おこなうとともに会話の中から他の方面の意向、希望を集めています。「炬燵にあたりたい」は立ち上がりが難しい人ばかりのため、テーブル式の購入をはじめ諸所対応を検討していきたいとしている最中です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人より細かな聞き取りをし、入居以前の生活環境を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しの変化でも記録し、適切なサービスが受けられるよう職員間で情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞きとり、カンファレンス等で検討しよりよい介護計画を作成している。	介護支援専門員資格を持つ計画作成担当者が2名いる盤石な体制を裏付けるかのように2表の担当者欄には「本人」と入る箇所もあり、利用者主体な事が視えます。カンファレンスノートを備え、職員に事前に意見を出してもらって話し合い、チームケアにつなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や詳細記録より情報を共有して、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズに対応できるよう、その都度考え、サービス内容を見直している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の影響で、ボランティア・民生委員・地元の小学生との直接交流はできていない。小学校より今年もお茶を頂いたので、お礼に雑巾を縫い届けたりして関係を保っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切に、利用者に合った受診先を検討し主治医を選び、適切な医療が受けられるように支援している。受診が困難な利用者は、職員が相談に行ったり、往診にきていただいている。	訪問診療で来所する医療機関は利用者の孫が看護師で勤務する協力医で、気をきかせてくださっているのか大抵孫娘が帯同しています。在宅の頃からのかかりつけ医を継続するのは2名のみですが、いずれの場合も早めに医療機関につなげることを旨としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師が出勤し、利用者の健康状態を確認し助言してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は、入院先の相談員や看護師、家族と連携し早期退院へつなげている。新型コロナウイルス感染症の影響で面会ができない為、電話で情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りについて、本人や家族の意向を踏まえた上で事業所のできることを説明し対応している。主治医や看護師の協力を得て支援している。	5月に老衰でお見送りをおこなっています。家族は最期に顔を見ることもでき、間に合わなかった孫には看護師が「一緒にやりますか？」と声をかけて湯灌を通じての温もりあるお別れが叶っています。通夜に管理者が出向くと、此処での写真が飾ってあったそうです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え救急隊への情報提供を用意している。職員は適切な初期対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災と水害に備え法定訓練の他に、自主避難訓練を実施し、職員全員が訓練に参加できるよう努めている。	目前が川なので、年2回の防災訓練とともに水害訓練も2回実施しています。消防署から水消火器を5本貸してもらえ、初めて「的」に向けて放つことも経験しています。避難所への徒歩は利用者は無理な距離のため車をつかって「ここだね」と、確認のみおこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや接する態度に気をつけている。訴えは否定せず傾聴し、状況に応じた対応をしている。	「過剰介護はやめましょう」との呼びかけを繰り返しおこなう一方で、トイレの扉は数センチだけ開けて見守って欲しいとしてケースバイケースで取り組み、偏った見方や考え方にならないよう月1回のカンファレンスで確認しあっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを多くとり、その中で本人の思いや希望が表せることができるような接し方を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格や体力を把握し、無理強いせず過ごしてもらっている。食事の時間や静養等本人の希望にそって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月床屋が来所し散髪をしている。着替えは好みの物を着られるよう、本人に準備してもらったり一緒に選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや盛り付け、片付け等手伝ってもらっている。会話の中から食べたい物を聞き献立に取り入れている。	「これは誰の？」と職員が迷うことがあり、現在は皆共有の割れない食器を導入しています。個別性は失いましたが、感染症対策第一の中では煮沸が簡単にできることは大いにメリットです。恒例の五平餅、行事食とともにバイキング形式で好きなものを好きなだけという設定も人気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し管理している。水分摂取の少ない方は、お小遣いで好みの飲み物を購入し提供している。刻み食・ペースト食・トロミ剤の使用等個々に合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きだけでは口臭が気になる方は、洗口液を使用したりしている。自力で歯磨きができない方は、口腔スポンジ等を用いて一人ひとりに合った口腔ケアを実践している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見計らい声かけやトイレ誘導をして、排泄の失敗を減らせるよう取り組んでいる。	平均介護度2.3で、一人でトイレに向かう人は11名にのぼりますが、後は確認する必要があります(流してない、汚している等)。立位が保てずベッド上での交換となっている人は3名いるものの、自宅では紙パンツだったのが布パンツへと向上した人が4名もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日2回手作りのヨーグルトを提供している。排便チェック表をつけ管理し、便秘時には下剤や坐薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴日は決められているが、その日の体調や気分によって変更できるようにしている。入浴ができない方は、清拭剤を用いて全身清拭している。	立ったり座ったりがイヤで入浴拒否となっている利用者には、職員が椅子を浴槽に置くことで入るようになった事もあり、「意向を汲んであげてよかったね」に結ばれた例は少なくありません。家族、親戚、職員が自宅から柚子を持ち寄り、時節風呂も続けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて日中も自由に休息されている。寝具は定期的に干したり洗濯している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作成している。服薬介助は、職員2名で確認し誤薬の無いよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張り合いや役に立つ喜びを感じ過ごせるよう、個々に合ったお手伝いをしてもらうようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や気候をみて外気浴したり屋外散歩ができるように努めている。コロナ禍でもあり、病院受診や金融機関への外出以外は控えて頂いている。	「歩いて、歩いて、歩きたい」と無性に歩きたい人もいますが一人に時間はとれず、桜や紅葉を眺めつつの川沿いの散策をできる限りおこなうほか、気分転換にゴミ捨てに誘うこともあります。窓が大きく大自然をパノラマで親しめ、白鷺や猿の来訪も愉しんでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預かったお金はホームで管理している。必要時には、本人や家族の許可を得て使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から訴えがあった時や必要に応じて職員が家族と連絡を取っている。お誕生日のお祝いでメッセージカードや写真が届くことがある。携帯電話はホームで管理し希望に応じて使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各トイレに薄めハイターを置き小まめに除菌している。共有空間の除菌や小まめな換気を行い、新型コロナウイルス感染症の予防にも努めている。生活感が出るようホールの壁には写真を貼っている。	陰圧装置をはじめゴーグルやマスク、シューズキャップ、医療用手袋などが町から届き、共用空間の衛生管理に役立っています。利用者も必ず石けんでの手洗いを励行し、換気も1時間おきに15分前後とこまめに実施、清掃回数も増やしてウイズコロナを浸透させています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室があり、独りになれる環境が整っている。ホールにはソファがあり、近くでテレビを観たり、話をしたりと自由に過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物を持ち込んだり、飾ったりして居心地良く生活できるようにしている。本人や家族と相談し、テレビや扇風機等を置き過ごしやすい部屋になるよう工夫している。	息子の位牌と写真を拝む利用者には供えるお水を職員が手伝っています。プリンターやパソコンを持ち込みたいとの希望は様々なリスクを鑑み、「部屋が狭くなってしまうので皆でいるところで安全につかきましょう」と提案して、職員が付き添う状態で使ってもらるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLに合わせギャッジベットや手摺りを使用している。転落のおそれのある利用者は、床に布団を敷いている。センサーの発信器の位置を個々に合わせ安全に過ごして頂けるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376300238		
法人名	有限会社ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム設楽の家 2号館		
所在地	愛知県北設楽郡設楽町清崎字釜淵13番地2		
自己評価作成日	令和3年10月29日	評価結果市町村受理日	令和4年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2376300238-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和3年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

余暇活動として、歌の好きな方が多いので独自の歌集を作り、それを見ながら歌い、楽しい時間が過ごせるようにしている。時には、CDに合わせて歌うこともある。声を出すことで誤嚥防止にもなる。また、9人の利用者が一緒に運動する機会も作っている(風船バレー等)。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

創業150年余となる地元の酒蔵からは消毒用のアルコールが届き、清掃を兼ねた民生委員の慰問、小さな手で丹精込めて作ってくれた小学校からの日本茶、職員も名産の五平餅で腕を振るうという町内皆家族のような恵まれた環境に事業所はあります。コロナ禍となり、関わりは縮小せざるをえないものの、小学校には交流に変えて利用者の手縫いの雑巾や職員の編みぐるみが届けられ、奥三河の豊かな自然と同じくして温かな関係が続いています。山間地域のため職員は絶えず不足気味ですが、それでも戻って来てくれた職員がいたり、ユニットリーダーの成長もあって、穏やかな空気が流れている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度、理念を「その人らしく個性を生かし、のんびりと居心地のいい、笑顔あふれる皆の場に」と見直し、より一層利用者に寄り添い、安全で楽しく生活できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で直接の交流は無いが、地区の小中学生からお茶を頂き、そのお返しとして、利用者の心のもった手作りの雑巾を送り交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年行われていた認知症セミナーは、コロナ禍の為実施されなかったが、管理者は相談等で認知症の状態を理解してもらうように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、運営状況等の報告をし、委員の方々から意見を頂き、事業所の運営に反映できるように取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、役場担当者と連絡を取り、コロナ対策や災害時などの協力が得られるように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束について3ヶ月毎に話し合い、学び、理解し、そのような行為が行われないように努めている。また、玄関に施錠する場合は、施錠表をつけ、理由を明確にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待について職員会議等で話し合い、学び、理解しそのような行為が行われないように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護関係の資料などから学び、また、話し合い、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、利用者や家族と契約前に面談をし、不安が無いよう丁寧に説明し、理解納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表が参加したり、面談や電話などで意見を聞き運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議や職員会議を通じ、職員の意見や提案を出し合い、運営に反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望者には資格取得の支援を行ったり、勤務の見直しを行い、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、外部の研修を受けることはほとんど無いが、働きながら学べるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で、外部の同業者との直接の交流は無いが、管理者はメールや電話等でサービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴し、コミュニケーションを取る事で、安心して生活できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訴えや要望を傾聴し、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談・面談で、本人や家族が抱えている問題を把握し、どのようなサービスを提供していけばいいか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常を共に過ごすことで、生活能力を知り、馴染みの関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に電話や手紙で現状を伝え、支援の協力を得て共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前の予約で家族面会されており、また、知人の方もコロナワクチン接種済証を持参していただければ面会可能となっているが、緊急事態宣言下では控えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の仲を取り持ち、孤立することがないように、また、他号館の利用者ともコミュニケーションがとれるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の退居後も、必要に応じて家族が面談できるような関係を築くように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	丁寧に話を聞くことで、本人の希望・意向が把握できるように努めている。認知症の影響でうまく言葉にできない利用者に対しては、日頃の会話や表情から希望・意向を汲み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし方や生活環境について、家族や本人から聞き取り把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方・心身状態・ADLを把握し、適切なサービスが受けられるように職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を事前に聞き取り、よりよく暮らすことができるように、カンファレンス等で意見を出し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に介護記録や詳細を記入し職員間で共有し、日々の様子やサービスの実践結果を検討し、介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人や家族のその時々ニーズに対応できるように、サービス内容を見直し更新できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、例年のようなボランティアの方や民生委員との交流はできないが、地域の人々の協力を得て、安全な暮らしができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切に、利用者に合った受診先を検討し主治医を選び、適切な医療が受けられるように支援している。受診が困難な利用者は、職員が相談に行ったり、往診にきていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に1回出勤し、利用者の健康状態を見て相談・助言している。記録をつけ職員間で共有し、適切な受診が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の状態を記録し、病院関係者に提供できるようにしている。入院中も退院に備え、病院関係者や家族から情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りについて、本人や家族の意向を踏まえた上で、事業所でできることを説明し対応している。主治医や看護師の協力を得て支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊への対応のため、緊急時対応マニュアルを用意している。職員は、心臓マッサージ等の応急手当を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間や夜間を想定した火災訓練を行い、反省点を話し合い災害に備えている。また、川が近いこともあり、水害による避難訓練も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉使いや態度に配慮している。また、訴えには傾聴し、丁寧な受け答えができるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々とコミュニケーションをとったり、普段の関わりの場で、本人の思いや希望が聞き取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や状態を観察考慮し、サービス提供できるようにしている。居室で休まれたり、屋外へ散歩に行くなど、その日の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを尊重し、着替えを選んでもらったり、衣類の汚れも気をつけ、心地良く過ごして頂けるよう努めている。散髪・髭剃り等で身だしなみを整えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けの手伝いをしてもらっている。普段の会話の中から利用者の好みを知り、献立に生かせるようにしている。また、自分で食べることの喜びが味わえるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態で提供できるようにしている。栄養バランスがとれるように献立を考慮したり、夜間の水分補給も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分できない利用者は介助している。入れ歯の手入れに洗浄剤を用い、清潔が保てるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導したり声掛けをし、トイレでの排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・散歩やヨーグルトの提供で腸の活性化に努めている。排便の状態をチェックし、滞っている利用者には、処方された便秘薬を用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を決め、週に2回は入浴できるようにしている。利用者の体調や皮膚の状態に合わせて、入浴を変えたり回数を増やしたりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて、日中も休息できるように支援している。定期的に布団を干したり、シーツを洗うなどして気持ちよく眠れるよう努めている。また、不安や悩みを傾聴する事で安心して眠られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に薬の一覧表を作り、職員は副作用・効用の把握に努めている。定期的を受診し、状態を相談し体調に合った服薬ができるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合ったお手伝いをして頂くことで張り合いが持てるようにしている。利用者の好きなことをサービス内容に取り入れたり、レクリエーションやコミュニケーションを通して楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や気候をみて外気浴したり屋外散歩ができるように努めている。コロナ禍でもあり、病院受診や金融機関への外出以外は控えて頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預かったお金は施設で管理しており、必要ならば家族に連絡し使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は、利用者につなげ話ができるようにしている。携帯電話を持ち込んでいる利用者もあり、管理は施設でしているが、本人が希望すれば使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日2回ホール内の除菌や小まめな換気を行っている。トイレは、利用者の使用后、汚れを確認し拭き取っている。ホールや居室の壁には、季節の飾りや工作・写真などを貼り楽しめるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに個室があり、独りで思い思いに過ごされたり、ホールのソファやイスで、気の合う者同士歌を歌われたり談笑されて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居前に自宅で使っていた物や思い出の品などを持ち込み、安心して過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLを把握し、居室のベットをギャッジベットにしたり、転落の恐れのある利用者は床に布団を敷いている。夜間はセンサーを使用し、安全に過ごして頂けるよう努めている。トイレや自分の居室がわかるように表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376300238		
法人名	有限会社ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム設楽の家 3号館		
所在地	愛知県北設楽郡設楽町清崎字釜淵13番地2		
自己評価作成日	令和3年10月29日	評価結果市町村受理日	令和4年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2376300238-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和3年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々のできること、可能性をみつけ出来ることを増やしたり、コミュニケーションをよく取るように支援しています。ジグソーパズルを使い完成できた喜びを一緒に分かち合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

創業150年余となる地元の酒蔵からは消毒用のアルコールが届き、清掃を兼ねた民生委員の慰問、小さな手で丹精込めて作ってくれた小学校からの日本茶、職員も名産の五平餅で腕を振るうという町内皆家族のような恵まれた環境に事業所はあります。コロナ禍となり、関わりは縮小せざるをえないものの、小学校には交流に変えて利用者の手縫いの雑巾や職員の編みぐるみが届けられ、奥三河の豊かな自然と同じくして温かな関係が続いています。山間地域のため職員は絶えず不足気味ですが、それでも戻ってきてくれた職員がいたり、ユニットリーダーの成長もあって、穏やかな空気が流れている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく個性を生かし、のんびりと居心地のいい、笑顔あふれる皆の場に！」を事業所の理念として掲げ、利用者にとって居心地のいい居住環境作りに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響で直接の行き来はありませんが、近隣の小学校から、お茶の葉が届き、お返しに手縫いの雑巾を渡したりと交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は地域の方達に、認知症の方の理解等の普及活動に努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、意見交換し・話し合い、サービスの向上に活かせるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、役場担当者と連絡を取り、コロナ対策や災害時などの協力が得られるように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、職員会議を開き、身体拘束について学び話し合いをしている。決められた時間以外に施錠した場合は、玄関施錠表に記入し管理している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設研修等で学び理解し、職員間でも話し合い、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は必要となれば、関連機関と調整をとり、支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、利用者や家族と契約前に面談を行い、丁寧に説明をし理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や嗜好アンケート等を定期的に実施し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で、職員の意見・提案を聞く機会を設けたり、稟議書で代表者に提案しサービス向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件や給与水準を必要に応じ見直したり、資格取得等の支援をしサービス向上に務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修の他、法人外研修についての案内掲示を常に行い、受講希望者は参加できるように勤務を調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症の影響で、研修等で直接交流することはありませんが、電話等を通じて交流している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の希望等、しっかりと聞き取り支援につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望をしっかりと確認し、サービスに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談・面談で、本人や家族が抱えている問題を把握し、どのようなサービスを提供していけばいいか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にサービスを提供するだけでなく、出来る事を見つけ一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に電話や手紙で現状を伝え、支援の協力を得て共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の影響で面会の制限はあるが、なるべく関係が途切れないよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の仲を取り持ち、孤立することがないように、また、他号館の利用者ともコミュニケーションがとれるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族から相談等があれば、しっかり聞き対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	丁寧に話を聞くことで、本人の希望・意向が把握できるように努めている。認知症の影響でうまく言葉にできない利用者に対しては、日頃の会話や表情から希望・意向を汲み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人より細かな聞き取りをし、入居以前の生活環境を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方・心身状態・ADLを把握し、適切なサービスが受けられるように職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を事前に聞き取り、よりよく暮らすことができるように、カンファレンス等で意見を出し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や詳細記録より情報を共有して、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に変化等があった場合、カンファレンス等で話し合い、サービスの提供方法を検討している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の影響で、例年のようなボランティアの方等との交流はできていないが、近隣の方たちの協力を得て、安全な暮らしができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族から、かかりつけ医の希望があれば、希望の医療機関で医療が受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1日看護師が出勤した際、直近の様子を伝え相談等行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は、入院先の相談員や看護師、家族と連携し早期退院ができるようつなげている。新型コロナウイルス感染症の影響で面会ができない為、電話で情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りについて、本人や家族の意向を踏まえた上で、事業所でできることを説明し対応している。主治医や看護師の協力を得て支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え救急隊への情報提供を用意している。職員は適切な初期対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災と水害に備え法定訓練の他に、自主避難訓練を実施し、職員全員が訓練に参加できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉使いや接する態度に気をつけている。本人の訴えには、否定せず傾聴するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取り、本人の思いや希望を汲み取り、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調・体力を考慮し、無理のないよう利用者のペースに合わせて過ごしている。必要に応じ、日中居室で休んで頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みを尊重し、季節に合った衣類選びをしている。衣類の汚れ等には気をつけ、心地良く過ごせるようにしている。散髪・髭剃り等で身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けの手伝いをして頂いている。普段の会話の中から、利用者の好みを知り献立に活かせるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食形態で提供している。水分補給は小まめに行い、夜間の水分にも注意している。食事摂取量や水分摂取量が少ない利用者は、おこづかいで好みの物を購入し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。口腔スポンジを使用したりして、一人ひとりの口腔状態に合ったケアを行っている。週3回入れ歯洗浄剤を用い清潔を保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛けをし、トイレで排泄できるように支援している。オムツ使用の方は、時間をみてパット交換を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・散歩や手作りヨーグルトを提供して排便を促している。排泄チェック表をつけ、排便の管理を行い、便秘時には処方された便秘薬を用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴できるようにしている。利用者の体調を考慮し、入浴日を変更している。冬はシャワーでは無く、回転台を使用し浴槽にイスを入れて車イスの方でも浴槽に入れるように工夫している。状態に応じて清拭を行う事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせ、日中居室で休息できるようにしている。定期的にシーツを洗濯したり、布団を干すなどしている。また、心配事など傾聴し安心して眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり薬の一覧表を作り、職員全員が把握できるようにしている。服薬介助時や薬のセット時は、必ず職員2名で確認し薬の袋には色を変えラインを引くことで、朝・昼・夕と分かりやすくし誤薬・セットミスを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いやレクリエーション・コミュニケーションをとることで、楽しみや気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候をみて、外気浴や散歩ができるよう努めている。コロナ禍である為、家族との外出・外泊は控えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預かったお金はホームで管理しており、必要に応じ家族に連絡し使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は利用者につなげ、話しが出来るようにしている。利用者の状態に変わりがあった時など、必要に応じ職員が家族に連絡している。月1回、家族様レターにも利用者の様子を書き家族が把握できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には季節に合った飾り・工物を貼っている。汚れ・臭いは気をつけ直ぐに掃除や除菌が出来るようにしている。下水の臭いが気になる為、パイプユニッシュを定期的に使用している。また、新型コロナウイルス感染症予防の為、小まめな換気を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに個室があり自由に過ごしている。ホールのソファや椅子で、利用者同士話したりテレビを観たりして、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や写真などを持ち込み、居心地良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごせるように職員1名は必ずホールにて、見守りを行っている。夜間はセンサー発信器の位置を確認し、センサー受信器が作動したら直ぐに訪室するようにしている。		